

令和二年度 近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

「素敵なお金」

奈良女子大学附属中等教育学校 三年 坂下 華

私は、今の社会に税が必要だと思う。

まず税から少し離れてお金という視点で見してみる。お金は誰が生きていくにも必要で欠かさない存在であるうえに、社会のほとんどがお金を中心に動いていると言ってもいいくらいお金の存在はとてつもなく大きい。だから人間ならお金が手に入って嬉しくない人なんていないだろうし、実際私自身も嬉しいと思う。しかしお金は人に幸福をもたらす一方で不幸ももたらす、幸福と不幸が表裏一体となっているもの。私達はその事を理解して、お金とうまく付き合っていかなければならないと思う。

そこで私達学生は今、そんなお金を将来手に入れて生きていくために、お金では買えない知識や経験を身につけている。知識や経験はその人の努力と功績に比例し、決してお金で買えるものではないと私は思う。しかし、その知識や経験を得るためにはどうしてもお金が必要になってしまう。しかも少しではなくたくさん。そうなると家庭によって子供達の知識や経験の量は明らかに格差がでて、たくさんの子の未来が閉ざされてしまう。そんな状況を支えてくれているのが税金。簡単に言うと、すでにたくさんの知識や経験をもつ立派な大人の人達のお金で私達は知識や経験を身につける。そして私達が立派な大人になった頃には今度は私達がお金を払って次の子供達を育てる。この制度は本当に素晴らしいものだと思う。もちろんこれは税金の使われ方のただの一例にすぎないが、どこらにせよ税金は必ず誰かのためになるお金。最初にお金の話をしたように、お金は誰もが必要としていて、手に入れたいもの。それなのに自分以外の事のためにお金を払うのはなかなかできないことだと思う。税金を払うと自分のためにもなるが、税を納めることがもし義務化されていなかったら今の様々な社会の仕組みは成り立っていなかったとも思う。

税金は、国民が国を信用しているからこそ大事なお金を国に預けようと思えるし、成り立つものだと思う。また税金は、人の欲や損得ではなく信頼と思いやりから成り立っているというのがとても素敵だと思う。そんな素敵なお金をもっとたくさん増やしていきたいし、自分も早く大人になって税金を払い、社会に貢献したい。そして今よりもさらに良い制度が生まれて、税金そのものをもっと価値のあるものにできたらいいなと思う。